

## 西部センターだより

2号

R7.3.7

わかもの すがた げんき ねん  
若者の姿に元気をもらった1年

こんねんど けんしゅうかい きんか あら まな ねん  
今年度は、研修会やフォーラムへたくさん参加させてもらい、新たな学びがたくさんあった1年でした。

なか いんしやう のこ わかもの しゃかいきやういっかつどう たんきゆうがくしゆう い い かつどう すがた  
その中で印象に残ったのは、若者が社会教育活動や探求学習で生き生きと活動する姿でした。

かわもとまち ちゅうおうこうこう かわもとちゅうがっこう せいと ほうかご い ぼしよ せつきよくてき  
川本町の「かわもとあそらポ」では、中央高校や川本中学校の生徒が放課後の居場所づくりに積極的にかかわっていました。あそらポで過ごした小学生は、高校生や中学生の姿から学び、「やってみたい」という気持ちに火がつき運営の一員になるといった、子ども同士の学びの場がありました。

げんざい けんない こうこう きやういく いっかん と く ちいき おとな こうこうせい  
現在、県内の高校でキャリア教育の一環として取り組んでいる「地域の大人と高校生のトークイベント」にも参加しました。浜田高校の「ちょこっトーク」では、高校生とペアになり興味のあることや将来について、語らいました。高校生が語る様子や社会の役に立ちたいという内容に感激し、元気をもらいました。

ますだ こうこう かく ちいきそうぞう こうこうせい たんきゆうがくしゆう はっぴやう こうだいいんけい  
また、益田であった「高校を核とした地域創造フォーラム」では、高校生の探求学習の発表や高大連携の  
パネルディスカッションなどを聴きました。

はっぴやう だいがくせい けんがい つわの こうこう にゆうがく たんきゆうがくしゆう つう つわの だいたす  
発表された大学生は、県外から津和野高校に入学し、探求学習を通じて津和野が大好きになったそうです。大学生になった今、休学して津和野へ戻りマルチワークで就労されているそうです。高校での探求学習が他地域からの生徒にも、地域の魅力を強く印象づけ、地域とかかわり続けたいという気持ちや行動につながっているとうれしくなりました。

ほか しょうかい かつどう ちいき だいたす い こうこうせい ちゅうがくせい だいがくせい  
他にも紹介しきれない活動がたくさんありますが、地域を大好きだと言う高校生や中学生、大学生がいて、地域のために行動する姿が県内にあります。将来、社会の担い手である子どもたちの育ちが「笑顔で暮らせる島根」の実現につながると確信しました。

ちいきかだい かいけつ わかもの そだ ちいき みらい つく かつどう おこな  
そして、地域課題を解決しようという若者が育ち、地域の未来を創る活動がたくさん行われているのは、間違いなく若者を支える大人がいるからと考えています。子どもたちが育つ地域の豊かな環境を整え、人とつながって学べる機会をつくっている社会教育関係者や地域の大人のお陰だと思います。大人も子どもも、地域で共に活動し、学びあっていることが大きな動きになると考えます。

れいわ ねんど だい きしまねそうせいけいかく きやういくしんこう じっしねんど あたら そうせい  
さて、令和7年度は「第2期島根創生計画」「しまね教育振興ビジョン」の実施年度です。新しい創生計画では「島根を創る人をふやす」ため「島根を愛する人づくり」を推進し、「心豊かな社会をつくる」こと

をめざしています。教育振興ビジョンでは、「すべての子どもが学びの主人公」「実体験に根ざした本物の教育」「挑戦心、探求心が育つ学びの環境」の3つを基本目標に掲げています。

みなさんと一緒に、これらの方針や考えの先にある「笑顔の未来」に向けて、研修センターではより実りのある研修を行いますので、引き続きご支援・ご協力をよろしく願います。

さいご ねんかんきんむ いえだ がつまつ しく しりぞ  
最後に、25年間勤務しました家田が3月末で職を退きます。

かんしゃ もう れんらく  
感謝を申しあげ、ご連絡いたします。

島根県立西部社会教育研修センター 所長 青山征司



早春に咲く"河津桜"

# 2024年度 研修・講座をふり返って

## 公民館等職員研修「種」から住民とともに育てる事業を通した人づくり【全6回シリーズ】 5/13・6/14・6/27・10/22・11/27・2/26

- 第1回：「種から住民とともに育てる事業を通した人づくり」(オンライン)
- 第2回：「戦略的な人づくり1～事業に巻き込むポイント～」(いわみーる)
- 第3回：「戦略的な人づくり2～主体性を高めるポイント～」(いわみーる)
- 第4回：「紹介しよう！わたしの社会教育実践」(いわみーる)
- 第5回：実践発表交流会(東西合同)(少年自然の家)
- 第6回：「事業を通した人づくりは続く」(オンライン)



お月見どろぼう



土曜夜市 with 南高台夏祭り

(実践発表交流会)



5回目受講者アンケートから一部抜粋

- ・準備3割とはよく言ったもので、もう少し事前準備、練習などをすれば良かったと感じたが、何とか最後までやりきることが出来て良かった。
- ・とても緊張したが発表が終わり安心した。今後この経験を生かし事業を進めていきたい。
- ・この研修がなかったら、やりたいと思うことを心の中で思うだけで終わっていたのでやって良かった。



(過年度受講生の実践発表をオンライン受講)

(アイスブレイク)

(演習)

## コーディネーター研修 子どもと大人がともに「集って楽しむ」

6/7 (いわみーる)

【説明】「『結集！しまねの子育て協働プロジェクト』について」

【講義】「しまねの社会教育で大切にしていること」(オンライン) 島根大学大学院 教育学研究科 講師 大野 公寛 氏

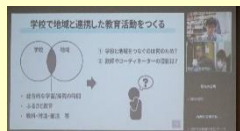
- コーディネーターの多様性を知る、立ち位置を意識する
- 学校で地域と連携した教育活動をつくる

①学校と地域をつなぐのは何のため？  
学校教育を地域の真正な文脈と結び付け、変化の激しい未来社会を生きる子どもの生きて働く資質・能力を育む。

②教師やコーディネーターの役割は？  
地域の教育資源とつなぎ、「子どもの主体的な学びを支援する伴走者」となる。

- 学校や地域で関係者を巻き込む
- 学校と地域の協働体制を構築・運営する

(講義一部紹介)



【実践発表】「想いをカタチに～地域と学校をマッチング～」

邑南町 井原公民館 主事 藤井 祥平 氏  
教育委員会学びのまち推進課 藤井 勇輝 氏



○井原公民館のコーディネーター

小学校の先生から「ふるさとの魅力を発信したいけれど…」、産直市のスタッフからは「産直市を気軽に集まる場にするには…」、「チラシ以外のPR法は?」、高校生からは「地区のPRをしたい」等を聞き、それぞれの想いをつないでいった。

まずは、産直市の魅力化を計るために、小学生とスタッフをつなぎ、意見交換などを通し、BGMや看板製作に至った。高校生の力を、産直市のInstagramや住民向けのスマホ講座に生かした。その活動は年度をまたいで継続して行われた。子どもたちの活動を見る楽しさ、お披露目会をひらいたりして、子どもの自己有用感へつながっていた。地域・学校・子どもたちがやりたいことを最優先する、継続性、相談しやすい関係づくりなどを意識し取り組んでいる。(発表一部紹介)

【演習】「見つけよう！実践への第一歩!!」

- <フリットーク>  
講義・実践発表をふまえ「参考にしたい」「それはなぜ?」(悩みや困り感)について思いを交流する。
- <ラベルワーク>  
「困り感」「悩み」に対して、参考になるような「うまくいった事例」「心がけていること」などのアドバイスを紹介しよう。
- <まとめ>  
「明日から実践してみたいこと」をカードに記入する。メンバーから応援メッセージを書いてもらう。



アンケートから一部抜粋

- ・学校で地域と連携した教育活動をつくる上での視点を整理することができた。
- ・大野先生の話が、自分の中でとてもタイムリーな内容で参考になった。
- ・井原公民館の実践発表が大変すばらしかった。子どもや地域がいきいきと取り組んでいる熱や温かさがストレートに伝わってきた。また、社会教育で大切にしているポイントが知りあはめられている発表でマネしたいことがたくさんあった。

## しまねの社会教育基礎講座 (浜田会場)

“集って” “楽しむ” からの動きをつくる 7/10 (大田市民センター)

【講義】社会教育の役割と社会教育で大切にしたいこと 県社会教育課 社会教育スタッフ調整監 福本 修司

【実践発表】「楽しいことするけえ来てみちゃん祭 ～三保まちサロン交流会～」 浜田市三保まちづくりセンター主事 高松 絵美 氏

自治会の中でサロン活動をしていないところがあり、コロナの影響で地域の人のコミュニケーションの機会も減っていた。「何か楽しいことないかね?」の声を聞きサロンを開くことにする。一緒にやってもらいたい人に、サロンの必要性や思いを伝え仲間になってもらう。

実行委員会を重ねていくうちに、仲間が自主性が生まれアイデアを出し活発に動く姿が見られた。ポロシャツを揃えるなどし、つながりも生まれたように思う。次の年、違うフィールドで動き出す姿も見られた。

相手に思いや目的を伝える、頑張りすぎずみんなでやることの大切さを感じた。(発表一部紹介)

## しまねの社会教育基礎講座 (益田会場)

“集って” “楽しむ” からの動きをつくる 7/5 (益田合同庁舎)

【講義】社会教育の役割と社会教育で大切にしたいこと 益田教育事務所社会教育スタッフ企画幹 福原 英忠

【実践発表】「わらわら！二条版 多世代交流 みんなでわらぞうりづくり」 益田市二条公民館主事 豊田 夏希 氏 (当日発表は、同公民館主事 谷本 のぞみ 氏)

日頃から公民館では、世代間交流が少ないことや、何とか地区を盛り上げたいなどの会話がなされていた。そんな時に、公民館に顔を見せていた若者から、「わらぞうりを作りたい」の相談が。これまで感じていた地域への思いを、「わらぞうりづくり」を通して解消できるのではと実行に移した。

公民館は、若者のしたいことを引き出すため、出た意見は肯定しその思いを文章化する、他団体とつなぐなど伴走者として動いた。何回も話し合いを重ね不安材料を解消していく中で、若者には自発的な行動が生まれてきた。

参加した小学生からは「夏休み一番の思い出だった」との感想が。高齢者からも楽しんでもらった様子が伝わってきた。(発表一部紹介)

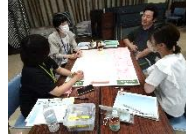
【演習】「自分にできることを考えよう」

- <ラベルワーク>  
地域の現状から理想の地域像を描き、その実現のために必要なことを共に考えることを通して、社会教育関係者として自分にできることを考える。



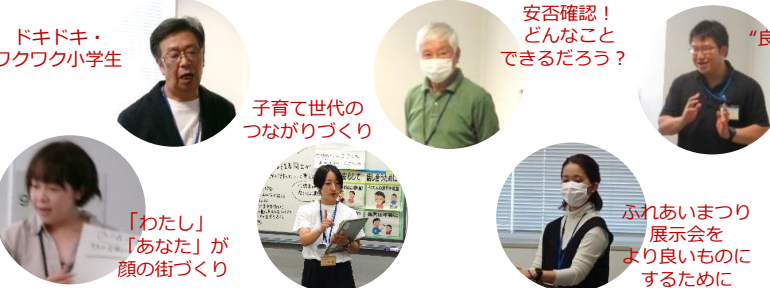
アンケートから一部抜粋

- ・緊張したが、講義・事例発表・演習と進んでいくにつれ楽しく受講できた。
- ・“社会教育”というものの理解がより深まったと感じた。常に関わり続けることだからこそ、誰にとっても心地よいものとして、寄り添うような社会教育を目指したいと思った。(浜田会場)



- ・公民館の業務は、手を引いて活動につなげるのではなく、伴走ることによる自主的な活動につなげることが大切だと理解できた。
- ・事例では、地域住民が主体性をもって参画しているのがわかった。(益田会場)

- 第1回：～まずは体験！参加型学習！！～  
(講義・アイスブレイク体験・参加型学習と手法の体験・学習プログラム作成)
- 第2回：～ひろがる！ファシリテートイメージ！！～  
(ミニレクチャー・リハーサル・ブラッシュアップ)
- 第3回：～TRY！ファシリテート！！～ (学習プログラム実践、交流会)



「良いクラス」って何か考える  
地域のいいとこ・困りごと みんなで話してみよう!  
アンケートから一部抜粋  
・実際にやってみる機会をもつことができた上に、様々な方から意見をもらうことができた貴重な機会だった。準備の大切さを身をもって体験した。  
・初めてのことで上手くいかないことや大変だと思えることが多かったけれど、終わってみたら良い経験になった。

## 公民館等職員専門研修

人づくり、つながりづくり、地域の核となる公民館等施設を目指して

10/15 (いわみーる) オンライン会場

【事例発表】「広瀬の人づくり地域づくりで私が大切にしていること」  
安来市広瀬交流センター主事 喜多川 由紀 氏  
新米主事の頃、センターをめぐりや安心感のある場所にした願いがあった。半面、コミュニティの存続などに不安も。その後、地域住民との関わりなどの中で、見えるものも変わっていった。負担感満載の地域の役割、活動の意義など、センターに関わる人の層が違うことにも気づいた。そこで、現状や課題から、“変えるものは変えていく”“縮充”“適人適所”と事業の見直しをおこなった。地域の土台をどう作っていくかを大事にし、人との関係づくり、動く、知る、情報キャッチ、ふり返る、思いを巡らせることなど意識している。(発表一部紹介)

【演習Ⅰ】事例発表ふり返り (いいなと思ったこと・聞いてみたいこと)  
【講義Ⅰ】「地域の明日のために～しまねの社会教育流儀～」  
東京大学大学院 教育学研究科教授 牧野 篤 氏  
社会教育：人と人の「かかわり・つながり」の土壌を耕す。  
喜多川さんの立ち位置：社会教育の担い手  
○社会教育的アプローチ→「自分でやる」を支える。  
○自治：自分でやる  
○何が一番大事か？ (なぜこの事業がなされているか)  
⇒断捨離、不易流行、変わらないためには変わらなければならない。  
社会の基盤を「耕す」社会教育=自治の基盤としての社会教育 (講義一部紹介)

【講義Ⅱ】「地域の明日のために～地域づくりと社会教育/みんなが担い手の社会をつくる～」  
1.何が問われているのか…  
個人と「社会と環境」のWell-beingをつくるのが社会教育。相手の身になることが大事。  
2.社会教育の概念を問う…社会教育は、地域コミュニティを基盤とする社会の土台である。人と人の「かかわり」や「つながり」の土壌を耕しておくという役割が強調され、それが社会の持続可能性およびWell-beingと結びつけられている。  
3.地域をつくる公民館・社会教育…  
社会教育に目的はない。社会教育がしっかりしていると、「目的」がうまれる。  
4.人は何が大切か…過疎地三つの空洞化より (人の空洞化、土地の空洞化、集落機能の空洞化) が、誇りの空洞化となり集落の解体・自治体の解体につながり無住化へ。人はともに寄り添うことで、コミュニティを保ち続けることができる。  
5.<社会> (ふるさと) とは「ひと」  
6.誰もが社会の当事者になる  
7.地域コミュニティの交差点をつくる  
8.価値多元化と共生のコミュニティへ  
9.社会教育主事 (社会教育士) の位置づけを考える

【演習Ⅱ】「地域のより良い明日のために大切にしたいことを考えよう」  
「明日のためにできること」を話し合う <ワールドカフェ>  
アンケートから一部抜粋  
・事例発表は、うなずくところがたくさんあり、参考にしたい。  
・講義を聞いて、地域がお客様になっていると感じることがあったので、共感できた。  
・実践発表、講義、どちらも今は悩んでいること、モヤモヤしていることを考えながら聞かせていただいた。スッキリし、明日から地域のためにやっていくことが整理できた。  
10.PDCAからAARへ  
11.FOR ALLの上にBY ALLへ  
12.「はまる」と「育つ」  
13.Be-ingであることでDo-erになる

## 社会教育委員研修

未来を見据え、学び続ける「社会教育委員」

11/1 (あすてらす)

【あいさつ】「しまねの社会教育推進に向けて」  
鳥根県社会教育委員連絡協議会会長 有馬 毅一郎 氏  
有馬先生におかれましては、今年度をもって会長職を辞されます。これまで、鳥根県社会教育を支えていただき、誠にありがとうございました。☆☆☆☆

【講義】「社会教育委員と担当者に期待すること」  
文教大学 人間科学部・大学院教授 金藤 ふゆ子 氏  
1.そもそも社会教育委員とは何か -法の規定から分かること-  
2.なぜ、社会教育委員に幅広い職務・役割が期待されるのか  
委員の制度は、市民参加を実現させる仕組み。委員は、社会教育に関する事業の全過程に対して意見具申ができる存在。市民と行政の橋渡し・パイプ役。  
3.日本の生涯学習や社会教育の政策はどのように変化してきたのか  
今後の社会教育・生涯学習に期待される役割  
○デジタル社会への対応 ○地域コミュニティの基盤形成  
○社会的包摂の実現 ○ウエルビーイングの実現  
4.地域にはどのような問題状況があり、改革がすすめられてきたのか  
①少子・高齢化・人口減少 ②労働人口の減少 ③様々な格差の増大  
5.関連する研究や先導的事例の紹介  
・学校と地域の連携・協働は地域の大人、子ども、教員に変化・効果をもたらす。  
・派遣社会教育主事は持続可能な社会の構築に有用な人材である。  
・地域の学び合い・支え合いの推進は健康寿命を長くする。(講義一部紹介)

【実践発表】「未来を創る社会教育委員～よしかつ子7か条の取り組みより～」  
吉賀町 社会教育委員の会・教育委員会担当者  
○社会教育委員になって印象に残っていることは？  
・よしかつ子7か条を町の広報でマンガ形式で連載したこと！  
・社会教育は「具体的に何？」と言うのは難しいが、7か条は形にできた。  
・マグネット、のぼり旗で、7か条の周知を図ったこと。  
○委員としての活動の成果は？  
・委員が中心になって考えた「7か条」というアイデアがあることで、様々な意見がフラットに出るようになった。  
・範囲の広い社会教育に対して、町が「家庭教育支援」に重点を置いた。  
○今後の展望は？ (課題)  
・7か条の取り組みについて、成果や課題を整理して総括すること。  
・個人の思いだけでなく、町が何を求めているか、委員に何を期待しているかを明確に。  
・教育委員と対話や意見交流する場の設定。(発表一部紹介)

【演習】「未来を見据え、学び続ける『社会教育委員』をめざして」  
<ワールド・カフェ>  
【講評】吉賀町の実践事例から得た知見…①子どもの学びの場を地域全体と捉え、地域全体で育む仕組みづくり。社会教育委員は常に学び続ける存在。②活発な情報発信。行政・社会教育主事との連携・協働。家庭教育支援に積極的に貢献。③今後の課題をさらに深く具体的に考えている。町の子どもにどう育ってほしいかを考えている。演習から得た知見…委員同士が語り合うこと、情報の共有が第一段階。話し合いの中から新たなアイデア。委員の研修自体を委員自ら考えても良い。(講評一部紹介)

アンケートから一部抜粋  
・講義は、綿密な統計データと中央行政の方針、法的変遷等、大量の情報をわかりやすく、かつ、社会教育委員のなすべき役割と関連づけて説明していただいた。  
・実践発表は、発表の仕方はもちろん、聞いていていつもの会議の様子がうかがえ、わくわく楽しく、吉賀町の良さが伝わってきた。  
・参加してとても良かった。演習も工夫されていた。



- ◆生涯学習概論 オンデマンド (生涯学習の理念と施策、社会教育の意義と展開、生涯学習社会と家庭・学校・地域等)
- ◆社会教育経営論 オンデマンド (社会教育行政と地域活性化、社会教育行政の経営戦略、学習課題の把握と広報戦略、社会教育における地域人材の育成、学習成果の評価と活用 (1月中旬から2月上旬) の実際、社会教育を推進する地域ネットワークの形成、社会教育施設の経営、ふりかえりプログラム)

◆生涯学習支援論

【講義】ライブ配信受講 (学習支援に関する教育理論、効果的な学習支援方法、学習プログラムの編成、参加型学習の実際とファシリテーション技法)

アイスブレイク



【演習】集合研修

「参加型学習の実際とファシリテーション技法」(アイスブレイク体験・考察、ワーク体験、プログラム体験)  
 「ラベルワークとプログラムのねらい等の検討」「プログラム展開案の検討と作成」  
 「ファシリテーションの実演」テーマ：<学校と地域の連携・協働> <家庭教育支援> <障がい者の生涯学習>

◆社会教育演習

【ライブ配信】シンポジウム「社会教育主事有資格者及び社会教育士の職務の実際」

【演習】「事業計画立案の実際」・「発表」(Zoomをつなぎ島根東会場と合同実施)

ファシリテーションの実演



グループ1 モデル自治体：浜田市 / テーマ「青少年教育」

現状 ふるさと郷育・はまだっ子共育実施、担い手不足、潜在的な人材がいる、島根県立大学と連携できるのでは

- 課題
- ①ふるさと郷育の成果の見える化
  - ②市民活動に繋がる情報発信
  - ③行政と地域住民の連携

事業 施策：青少年の健全育成

【新規】市民参加型教育フォーラム事業

市民等が気軽に参加できる教育フォーラム(交流型)を開催。青少年健全育成の実践発表を聞き情報交換や交流を行うことで、学びと気づき、繋がりをつくるきっかけにし、新たな参画者を創出する。

【新規】情報共有ポータルSNS事業

市民活動情報を発信するSNSを開設し、イベント等をまとめて発信できる仕組みをつくる。市民と活動団体の繋がりがつくり、情報へのアクセスを容易にするなどし、参加者・協力者を増やし活動を活性化する仕組みを整える。



グループ2 モデル自治体：浜田市 / テーマ「家庭教育支援」

現状 核家族化、地域のつながり・地域と子どものつながりが少ない親子間、親同士のコミュニケーションが希薄

- 課題
- ①子どもを核とした地域のつながりづくり
  - ②子育て世代のつながりづくり
  - ③公的支援の情報発信強化

事業 施策：家庭教育支援の推進

【新規】おむすび事業

自然体験学習(米作り)や交流活動を通じて、子ども、親、地域を結びつけかけをつくるとともに、地域の子どもは地域で育てると意識の醸成を図る。

【新規】地域内ホームステイ事業

「地域は家族だ!」という意識を高め、地域の多様な人との関わりの中で子どもの地域への愛着心を育む。地域活動に参画しやすい場を提供し、地域の活性化を図る。



グループ3 モデル自治体：川本町 / テーマ「青少年教育」

現状 「かわもとあそラボ」の小中校生を支援する人材が不足しているため子どもたちのやりたいが実現できていない

課題 川本町の担い手人材不足の解消

事業 施策：次世代を担う人づくり

【拡充】ふるさと人づくり事業

大学生による「あそラボ」への運営支援を強化し、「川本サイコー!」と締めくくる地域の活性化を目指すため大学生インターンの受け入れに向けて事業を計画。

【新規】大学生のシェアハウス事業

シェアハウスの改修を「あそラボ」を中心に行う。居住スペースとしての利用にとどまらず、大学生がやりたいことを実現する場、小中高生、地域の大人が集まるイベントを実施する場としての活用を図る。



図書閲覧コーナーから

当センターでは、生涯学習・社会教育に関する書籍の他に、研修等を企画する際参考になるもの、地域づくりなどの書籍を保有しています。西部センターHP「社会教育の情報提供・学習相談」から、その情報を得ることができます。興味のある方はのぞいてみてください。

✿この書籍が新たにりました✿

- 「地方自治の未来をひらく社会教育」辻浩・細山俊男・石井山竜平著
- 「公民館を再発明する」牧野篤著
- 「ゼロから学べる! ファシリテーション超技術」園部浩司著
- 「日本の未来は島根がつくる」田中輝美著

ホームページをご覧ください!

ホームページの新着情報欄には、開催される研修の要項や実施した研修・講座の様子を掲載しています。また、「親学プログラム」「地域魅力化プログラム」のデータをダウンロードすることができます。「公民館等実態調査」「しまねの社会教育だより」「西部センターだより」などは、過去のものを閲覧することができます。



西部社会教育研修センター

今年度も、全ての研修・講座が終了いたしました。たくさんの皆様にご参加いただき、ありがとうございました。新たな繋がりや学びが生まれたでしょうか?

来年度、一部の研修をリニューアルいたします。皆様にとってより実りある研修・講座を提供できるよう、センター一同頑張っております。来年度もぜひ会場へお越しください。お待ちしております。

西部センターだより 2024年度 2号 (令和7年3月7日)

発行 島根県立西部社会教育研修センター 〒697-0016 浜田市野原町1826-1 (いわみーる3F)  
 TEL: (0855) 24-9344 FAX: (0855) 24-9345 Eメール: seibu\_shakaikyoku@pref.shimane.lg.jp  
 URL: https://www.pref.shimane.lg.jp/seibu\_shakaikyoku/